

令和2年度第1回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】 令和2年6月8日（月） 14：00～16：30

【開催場所】 富士見市教育委員会 会議室

【出欠状況】

小林	塚田	長堀	忽滑谷	発田
○	○	○	○	—

【事務局】

教育部長 学校教育課長 教育相談室長 指導主事1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
(1) 令和元年度富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
- 5 議 題
(1) いじめ等の原因による「不登校対策」について
(2) いじめのない学校づくり子ども会議について
- 6 事務連絡
令和2年度富士見市いじめのない学校づくり委員会
・第1回富士見市いじめのない学校づくり委員会
令和2年6月8日（月） 14：00 富士見市教育委員会会議室
・第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会
令和2年10月12日（月） 14：00 富士見市教育委員会会議室
・第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会
令和3年2月15日（月） 14：00 富士見市教育委員会会議室
- 7 閉 会（副委員長）

【議事】

(1) いじめ等の原因による「不登校対策」について

- 【事務局】 いじめ等が原因で、「不登校」児童生徒を出さないために、教育委員会や学校においてどんなことに気を付けたらよいか、また、どんなことができるかご意見を伺いたい。
- 【委員】 不登校傾向の児童生徒は、学校がどのように関わるかが大事。学校のアプローチにより、「好ましい変化が見られた」「変化が見られなかった」事案について分析することで、効果的な対応について共有することができる。
- 【委員】 不登校の要因「学業不振」は、今一度、本人や背景について確認を。学業不振の背景として、「識字」に課題があることもある。「識字」のつまずきから、学習についていけず「無気力」となっていることがある。本人が置かれている状況について分析し、適切な支援を行うことで、自信につながれるとよい。
- 【委員】 「不登校」になるきっかけとして、友達関係が要因となる場合が多いが、教員との関係によるものも少なくはない。例えば、別の児童生徒へ指導している言葉を、自分に向けられていると受け取る子供もいる。このようなことが繰り返されると、教員との関係がストレスとなってしまう。
- 【委員】 学校復帰だけが不登校対策ではない。本人の社会的自立を支援することが大切。その子にどのような力をつけたいのか、個別の支援計画を立てる。例えば、「分からない」と言える、「人に頼ることができる」など、一点豪華主義で対応にあたる。
- 【委員】 臨時休校や分散登校が、不登校傾向の児童生徒にとってプラスにはたらくこともある。学校が休校していることが、「今なら追いつける」チャンスと捉えることもできるのではないか。
- 【委員】 保護者は「学校へ行かせたい」と考えている。学校行事は登校のきっかけになる。学校が、不登校傾向の児童生徒にどのような配慮を行っているか保護者に見えると、保護者の安心感につながる。

(2) いじめのない学校づくり子ども会議について

【事務局】 昨年度は、小・中連携の視点から、中学校区でグループをつくり、小学校、中学校それぞれのいじめの現状や取組について話し合いをした。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、代表児童生徒を集めて話し合いをすることが難しい現状にある。このような状況下で、会議の持ち方や、話し合いの進め方についてご意見を伺いたい。

【委員】 話し合う内容としては、昨年度と同様「いじめをなくしたいけれど、うまくいかないこと」でよいのではないかな。

【委員】 新型コロナウイルスに関連するいじめも心配される。「思いやりをもつ」こと、「イライラする気持ちをどう除くか」について考える機会としてはどうか。

【委員】 一同に集まるのが難しいならば、オンラインでの会議とすることも一つの方法であるように思う。オンライン会議の進め方は、通信制高校のホームページにも紹介されているので調べてみるとよい。進行の役割が重要であり、オンライン会議に慣れている必要がある。